

2007年度までの環境行動計画と2006年度の成果

リコーグループ環境行動計画（2005年度～2007年度） ※達成目標年度の記載がないものは2007年度が目標。

1	製品環境性能の向上と 環境技術開発の促進	1) 新しい環境技術の開発 ※新技術開発状況の詳細につきましては公表していません。 23ページ
		① 資源投入量の削減を目指した環境技術開発を行う
		② 脱化石資源社会を目指した環境技術開発を行う
2	グリーン販売の推進	2) 製品環境性能の向上
		① 製品省エネルギー 25ページ
		② 製品省資源
3	事業所・オフィスでの コスト効果を狙った 環境保全活動	③ 製品の環境影響化学物質排出基準の遵守 31ページ
		① 再生複写機の販売台数向上 28ページ
		② 用紙のグリーン販売の促進
4	環境経営マネジメントシステムの レベルアップと、 システム統合による一貫性向上	① 事業所省エネルギー
		① 事業活動に伴い排出するCO ₂ (総量)の削減 35ページ
		② 事業所省資源
5	生態系保全を目的とする 環境社会貢献活動の推進	① 廃棄物発生量の低減 41ページ
		② 廃棄物の再資源化率向上 41ページ
		③ 用水使用量の削減 41ページ
6	環境経営情報システムの レベルアップ	④ 用紙使用量の削減
		3) 事業所汚染予防
		① 塩素系有機溶剤の使用を全廃
7	環境経営情報システムの レベルアップ	② CO ₂ 以外の温室効果ガスの排出量削減 36ページ
		③ 非生産系所有地、借用地に対する土壌・地下水汚染の調査・対策 47ページ
		① 生態系保全のための森林保全活動/環境社会貢献活動の実施 63ページ
8	環境経営情報システムの レベルアップ	① ISO14001システムのレベルアップ 49ページ
		② 製品含有化学物質マネジメントシステムの構築 31ページ
		③ 環境経営情報システムのレベルアップ 51ページ
9	環境経営情報システムの レベルアップ	④ 用紙使用量の削減
		① 資源投入の環境負荷情報をリアルタイムに管理可能な情報システムを画像事業以外にも拡大
		② 物流の環境負荷情報をリアルタイムに管理可能な情報システムを海外拠点間物流にも拡大
10	環境経営情報システムの レベルアップ	① 生態系保全を目的とした環境保全活動の実施 (海外の各極地域統括会社、国内のリコー生産系事業所・生産会社・販売会社、リコーロジスティクス、リコーリース、リコー三菱サービス)

※ 1～4について第三者検証を実施しています。

進捗状況（2006年度実績）

- ▶ 画像機器について、小型軽量化のための各要素技術の開発を進めています。
- ▶ 植物由来プラスチック製の画像機器用大型部品や透明部品、植物由来樹脂を使用したトナーを試作し、エコプロダクツ展に出展しました。
- ▶ 複写機、複合機、プリンター共に省エネ目標を達成した製品を発売しています。
- ▶ リユース部品使用質量は3.2倍となりました。
- ▶ 再生プラスチック使用質量は1,132tとなりました。
- ▶ 2006年度発売の複写機、複合機およびプリンターの10シリーズの機種群で2007年ブルーエンジェル基準と同等のオゾン、粉じん、VOC類のリコー基準を達成しました。

- ▶ 再生複写機の販売台数は5.1倍となりました。
- ▶ 古紙100%紙に加え、バージンパルプが主成分の用紙にも一定量の古紙パルプを混合し、古紙パルプの配合率は61.3%となり目標を達成しました。

- ▶ 排出総量 2.5%削減。
- ▶ 排出総量 7.7%増加。
- ▶ ・リコー及び国内生産会社：排出総量 3.3%増加。
・海外生産会社：排出総量 14.2%増加。
- ▶ 排出総量で国内販売 15.6%削減*。リコーリース 4.4%削減。リコー三愛サービス 4.4%削減。リコーロジスティクス 8.7%削減。各社基準年度比。リコーリースは2004年、その他は2002年。 * 国内販売の値は、国内各販売会社とリコーテクノシステムズの合計。

- ▶ 廃棄物発生量が2.9%増加。
- ▶ 国内販売 18.8%削減*。リコーリース 6.0%増加。リコー三愛サービス 9.9%削減。リコーロジスティクス 35.9%削減。各社基準年度比。リコーロジスティクスは2002年、その他は2004年。 * 国内販売の値は、国内各販売会社とリコーテクノシステムズの合計。

- ▶ 廃棄物再資源化率が94.6%～98.4%に向上。

- ▶ 用水使用量を11.8%削減。

- ▶ 用紙使用量を4.2%削減。

- ▶ 2006年3月、社外生産委託分の感光体製造における塩素系有機溶剤の使用全廃を達成し、完了しています。

- ▶ CO₂以外の温室効果ガスの排出量を29.0%削減。

- ▶ 履歴調査の結果から汚染の可能性があった5サイトで表層土壌調査を実施しましたが、対策が必要な汚染は見つかりませんでした。
- ▶ 対策が必要な汚染が見つからなかったため、すべての調査・対策が完了しました。

- ▶ 2006年度にリコー統合環境マネジメントシステムの第三者機関による統合認証を取得しました。これにより、事業と環境マネジメントシステムとの融合が進みました。

- ▶ 海外でも製品含有化学物質マネジメントシステムの構築を完了しました。また、内部監査を実施し継続的に管理強化を進めています。

- ▶ ジェルジェットプリンター分野、計量・計測器事業分野において、投入資源の環境負荷情報が管理可能な情報システムを構築しました。

- ▶ 日本国内配送におけるCO₂排出量を一輸送ごとに算出可能な情報システムを構築しました。

- ▶ 国内外において生態系保全を目的とする環境社会貢献活動が拡がり、各地の販売会社や工場で活発に行われています。
 - ・海外の各極地域統括会社・各国販売会社 37件
 - ・海外の生産会社 25件
 - ・日本国内の生産会社・生産系事業所 117件
 - ・日本国内の販売会社 129件
 - ・日本国内の非生産会社（リコーロジスティクス、リコーリース、リコー三愛サービス） 19件